

# IPCC WGI AR6の振り返りと AR7への期待

東京大学未来ビジョン研究センター教授  
国立環境研究所上級主席研究員

江守正多

# 温暖化の原因の評価の変遷

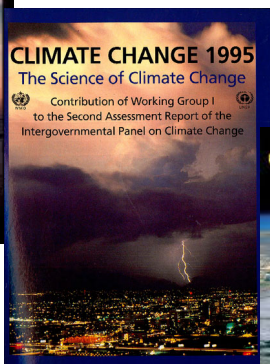
20世紀後半以降の温暖化の主な原因は人間活動である可能性が...

人間の影響が大気・海洋・陸域を温暖化させてきたのは

**疑う余地が無い**



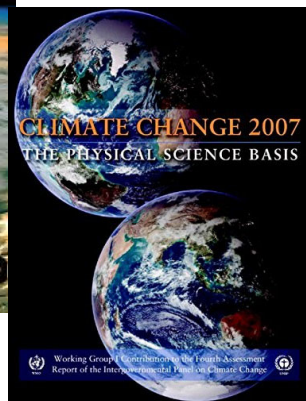
1990



1995



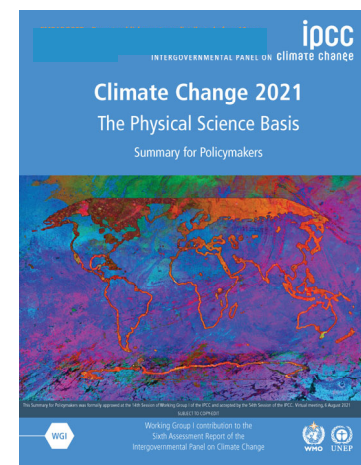
2001



2007



2013



2021  
第6次評価報告書

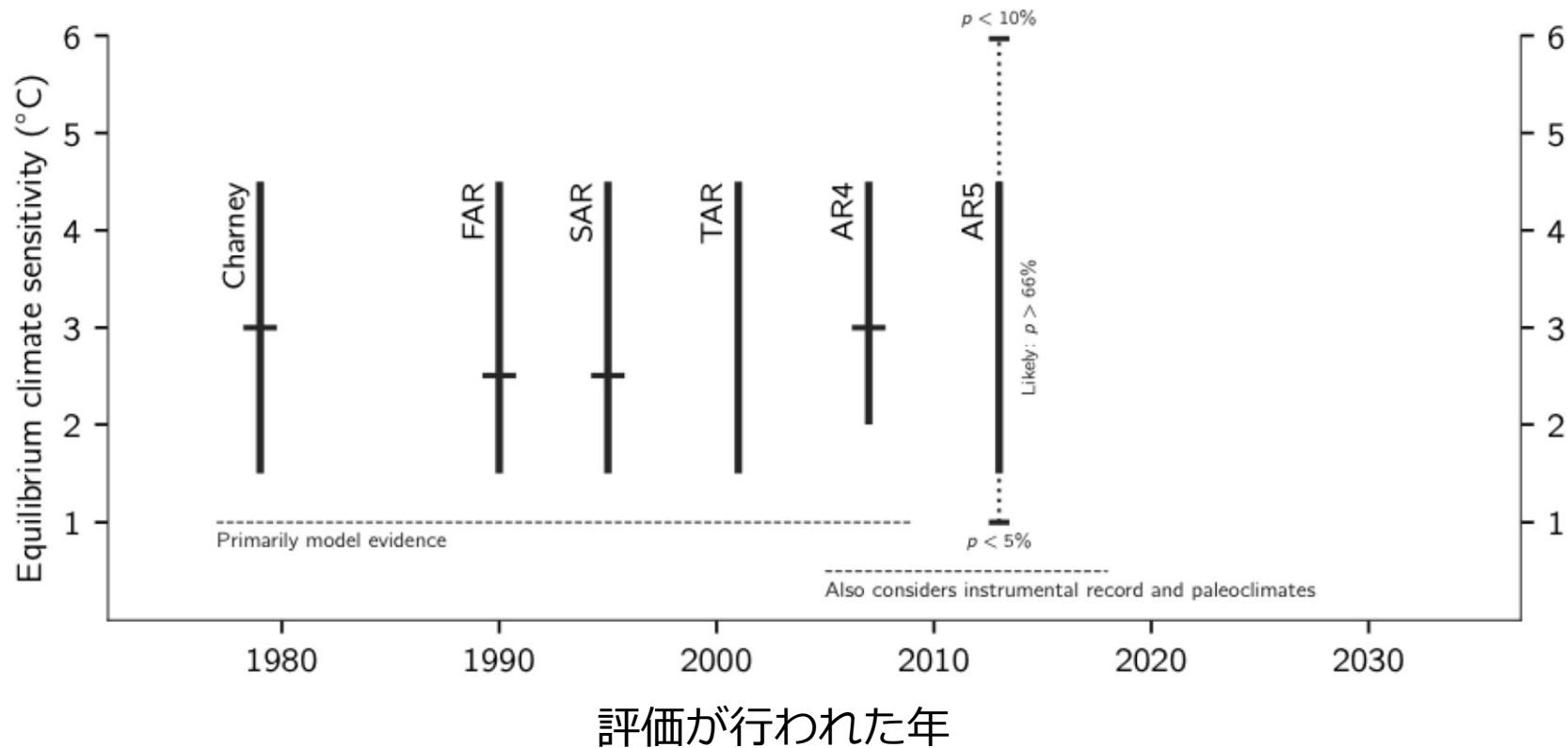
高い  
(>66%) 非常に高い  
(>90%)

極めて高い  
(>95%)

IPCC第1次～第5次 評価報告書

# 平衡気候感度\*の評価の変遷

\*大気中のCO<sub>2</sub>濃度を倍にして十分時間がたったときの  
世界平均気温上昇



気温上昇予測の不確かさの幅がAR6で半減

Q. まだやることはあるの？

A. もちろんあります。

AR7公表時期には、地球温暖化はほぼ1.5℃。

- オーバーシュート
- ティッピング要素
- 地域ごとの極端現象の発生見通し

などが、より強い実践的な重要性を持つ。

# 緊急性が高まる中での科学的発信 →社会の価値と向き合う必要

- **気候変動情報の構築と科学的理解の伝達は、制作者、利用者、より広い範囲の聴衆の価値観に影響される。**
- 科学的知識は、民族や国家のアイデンティティ、伝統、宗教、土地や海との関係からくる価値観や信念など、気象や気候に関する既存の概念と相互作用する（確信度が高い）。
- 科学には、客観性、開放性、証拠に基づく思考など、それ自体の価値がある。
- 社会的な価値観は、情報の構築、評価、伝達の際に行われる特定の選択を導くかもしれない（確信度が高い）。

(IPCC WGI AR6 Ch.1 ESより)